
桜、舞う。

SAKURA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜、舞う。

【Nコード】

N9599N

【作者名】

SAKURA

【あらすじ】

電車の中で、痴漢されていた中学三年生『沖田 桜』を助けた一人の男性。

桜は、一瞬で恋に落ち、電車で彼を見てはにやけていた。

そして、高校生になり「桜城高校」に見事入った桜。

しかし、担任はその恋に落ちた男性だった。

桜は、ビックリするも毎日先生を見るにつれて余計好きになっていく。

桜の想いは、先生に伝わるのか！？

ブローグ

どうして、貴方を好きになってしまったんだろう。

貴方に恋をすれば、きっと辛い思いをするって分かってたのに。
でも、どうしても諦められなかった。

私は気付かないうちに、「好き」という気持ちより「愛しい」という気持ちの方が大きくなってた。

私の事、好きになってなんて言わないから。

キスしてとか、デートしてとか言わないから。

だから、貴方の傍にいさせて？

ねえ…『先生』？

桜、舞う。

ヒラヒラと。

桜、舞う。

私達の頭上をヒラヒラと。

桜、舞う。

貴方の頭上をヒラヒラと。

桜、舞う。

私の恋心のまわりをヒラヒラと。

一目惚れ

桜：「っ…！」

今、私は痴漢にあつてゐる。

意味分かんない。

何で、私がこんな目に合わなきゃいけないの？

声も出ないし、気持ち悪い…。

涙があふれる。

痴漢：「へへっ、かわいいーねえ、嬢ちゃん…。」

ゾクツとした。

気持ち悪くて、ただただ早く駅に着けと思つてた。

カバンを握りしめて、俯いていると頭上から男の人の声がした。

「やめろよ！いい歳して、痴漢なんかしてんじゃねーよ！」

私は、ビククリして上を見ると、知らない男の人が痴漢の手をひねり上げていた。

痴漢：「うわ！何すんだよ！お、俺は痴漢なんてしてねえ！」

痴漢は、そう言つと、一瞬の隙をついて、男の人の手から逃れてどこかへ行つてしまった。

男の人は、

「あ！待て！…ちっ、逃げられたか…。おい、大丈夫か？」

私は、コクンとうなずいて、

桜：「あ、ありがとうございます！」

と頭を下げた。

「いや、大した事してないし、頭あげなよ。」

私は、言われた通りに頭を上げた。

すると、そこには男の人の優しいほほ笑みがあつた。

ドキンッ

なぜか、胸が高鳴った。

私は、顔が赤くなっているのが分かって、恥ずかしくて俯いた。
すると、

「じゃあな。」

と、男の人は手を振って駅に降りて行ってしまった。

これが、私の「恋」だった。

高校教師！？

桜：「うつわ〜！私も高校生なんだなあ！！」

私は、見事『桜城高校』に合格して、今校門の前にいる。まわりは、ざわついていてなんだか高校生になったんだなあって感じ。

私は、両手を上にあげて、「がんばるぞ〜！」と言った。一步踏み出して、高校に入った。そして、私の教室に向かった。

ザワザワ

教室に入って、席を確認して座っていた私は、あたりをキョロキョロと見渡した。

誰か、友達になれそうな人はいないかと探しているのだ。すると、

？：「ねえねえ、あなた、名前なんて言うの？」

誰かに声をかけられた。

その、声のした方を見ると、肩までのばした髪をサラっとかきわけていたキレイな女の子がいた。

私は、なんの事かと驚いていると、

？：「ねえ！」

と、また声をかけられた。

桜：「あ、ごめんなさい！私、桜って言うの。『沖田 桜』。あなたは？」

と、慌てて言った。

すると、その子は笑顔で、

奈緒：「私、『山崎 奈緒』って言うんだよ！よろしくね、桜！」
奈緒という子は、とびきりの笑顔で私にそう言った。

私は、なんだか嬉しくなって、

桜：「うん！よろしく！」

と、言った。

奈緒：「じゃあ、体育館行こ？始業式始まっちゃうよ！」
と、私の手を引っ張った。

そして、私たちは体育館へ向かった。

体育館

~~~~~校長の話~~~~~

校長：「えー、新しく1年生も入ったということで、皆さん仲良くしてください。以上。」

校長の長い話も終わり、始業式が終わった。

奈緒と、教室へ帰った。

教室で、担任は誰かとウキウキしながら席に座って待っていると

---

### ガラッ

---

と、ドアが開いた。

そして、入って来た担任が、

先生：「はい、俺がお前らの担任だ。よろしくなあ。」

桜は、啞然としていた。

だって、その担任は私が一目惚れした男の人だったから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9599n/>

---

桜、舞う。

2010年10月27日01時44分発行